

# 永亮百首

蛩

あしの葉に乱るる露の光かと

御製

みゆるは沢のほたるなりけり

貞成

おのづからまどの光とみゆるかな

忍ぶにすがる軒のほたるを

持基

とぶ蛩いかに思ひをふかめてか

みなそこまでもかげのもゆらん

兼良

わきかへる思ひをしねと山川の

滝つ岩瀬にとぶほたるかな

義教

ともし火の光を友と夜もすから

あつめぬまどにとぶほたるかな

公冬

草ふかき野沢のみづも此此は

あらはにみえてとぶほたるかな

浄喜

貴舟川空に玉ちる影見えて

岩なみたかく飛ぶほたるかな

性脩

夏もはやすゑののくさの葉をしげみ

露も蛸もみだれあひつつ

公保

みだれ行く野べの蛸をほに出でぬ

おいがたもとにつつみやはせん

公名

山陰のやみもたどらでよし野なる

なつみ川にも飛ぶ蛸かな